

2020年3月12日(木)
三陸新報

復興の願い込め

南三陸ホテル観洋

「命の森」にサクラ植樹

災の教訓を伝える場所として、5年ほど前から町民有志やボランティアの協力で整備を進めている。

植樹は、整備の一環として2017年に開始。多くの人が集う場所になるようにとの願いも込め、これまで137本のサクラが植えられている。

この日は、東北福祉大の学生や観洋の関係者ら約20人が参加。

「命の森」整備に当初から協力しているNPOさくら並木ネットワーク・桜野良さんの指導を受け、エドヒガンザクラとジンダイアケボノの2種類のサクラ20本を植えた。

雨が降る中、グループごとに分散し、くわで深く穴を掘って約2分の1の苗木を植樹。無事

南三陸町志津川の「海の見える命の森」で8日、ボランティアらが復興への願いを込めてサクラの苗木を植樹した。

志津川湾を望む高台にある「命の森」は、南三陸ホテル観洋を経営する阿部長商店所有の山林を活用。犠牲者を鎮魂し、東日本大震

に成長するようお願いしながら作業した。
この日植えた2種は成長の早い品種で、早ければ10年ほどで花を楽しむことができるという。
市片平丁小4年の小田嶋孝郎君(10)は「将来、大きくなったサクラを見に来たい」と話した。
植樹は11日も行われ、4月にも植えられ、家族と参加した仙台



サクラの苗木を植えるボランティア